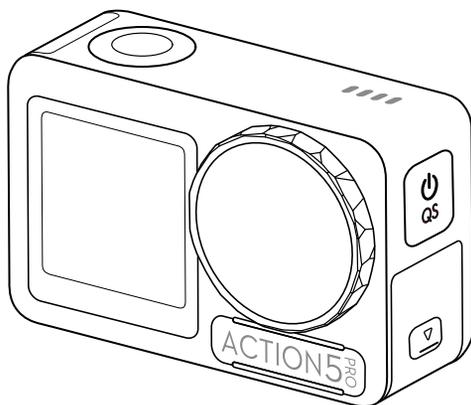


# dji OSMO ACTION 5 PRO

## ユーザーマニュアル

v1.0 2024.09





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。「DJI」から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用したり、他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書およびその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

### キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを探することができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

### 任意のトピックへの移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

### 本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用方法

## 凡例

△ 重要

☀ ヒントとコツ

📖 参考

## ご使用前にお読みください

DJI™はチュートリアルビデオと次の文書をご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

初回使用前に、すべてのチュートリアルビデオを視聴をし、『安全ガイドライン』をお読みになることをお勧めします。初めての飛行に際しては、『クイックスタートガイド』をよく読み、詳細に関しては本『ユーザーマニュアル』を参照してください。

## チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか、QRコードをスキャンすると、製品の安全な使用方法を実演するチュートリアルビデオを視聴できます。



<https://www.dji.com/osmo-action-5-pro/video>

## DJI Mimo アプリのダウンロード

QRコードをスキャンして、DJI Mimo アプリをダウンロードしてください。



- 
- 💡 • DJI Mimo がサポートする Android と iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、<https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-mimo> をご覧ください。
  - DJI Mimo のインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際のユーザー体験は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。
-

# 目次

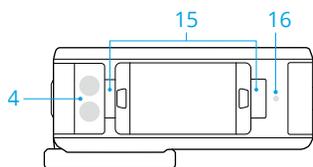
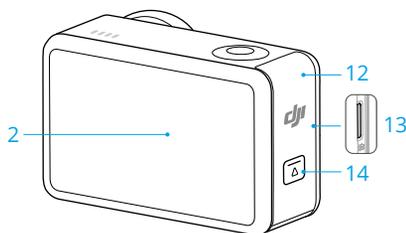
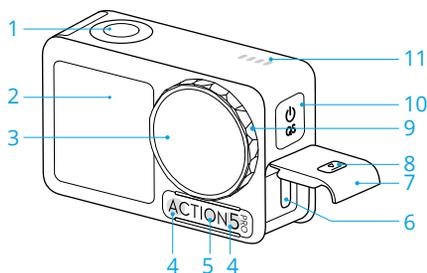
本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Mimo アプリのダウンロード	3
<b>1 製品の特徴</b>	<b>8</b>
1.1 概要	8
1.2 アクセサリー	8
Osmo Action 接着式カーブベースキット	9
Osmo Action 保護フレーム（水平&垂直取り付け）	9
Osmo Action 多機能バッテリーケース	10
<b>2 初めてのご使用にあたって</b>	<b>13</b>
2.1 バッテリーの取り付け	13
2.2 microSD カードの挿入	13
2.3 電源オン	14
2.4 アクティベーション	14
2.5 バッテリーの充電	15
<b>3 基本操作</b>	<b>17</b>
3.1 ボタン機能	17
3.2 タッチ画面の操作	17
3.3 写真および動画の保存	18
<b>4 本製品の使用</b>	<b>20</b>
4.1 撮影パラメーターの設定	20
4.2 映像パラメーターの設定	21
4.3 システム機能の設定	21
4.4 音声操作	22
4.5 タイムコード	22
4.6 ハイライト	22
4.7 超スローモーション	23
4.8 ファイル転送	23
4.9 マイクの接続	24
4.10 ウェブカメラモード	25
4.11 深度と高度	25
<b>5 メンテナンス</b>	<b>27</b>
5.1 ファームウェアの更新	27

5.2	水中で使用するときの注意	27
5.3	お手入れについての注意	28
5.4	バッテリーの使用に関する警告	29
5.5	他のアクセサリを使用 (非同梱品)	29
	Osmo 1.5m 延長ロッド	30
	Osmo 磁気ボールジョイント アダプターマウント	30
	Osmo Action 60m 防水ケース	31
	DJI フローティングハンドル	31
	Osmo Action サクシヨンカップ マウント	31
	Osmo Action ヘルメット顎マウント	32
	Osmo Action チェストストラップ マウント	32
	Osmo Action ハンドルバー マウント	32
	Osmo Action GPS 内蔵 Bluetooth リモコン	33
	Osmo Action 多機能充電ハンドル	33
	Osmo Action コールドシュー延長キット	33
6	仕様	35

## 製品の特徴

# 1 製品の特徴

## 1.1 概要



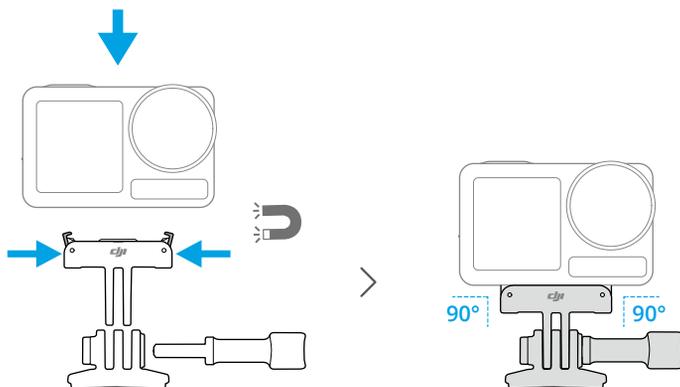
1. シャッター／録画ボタン
2. タッチ画面
3. レンズ
4. マイク
5. 色温度センサー
6. USB-C ポート
7. USB-C ポートカバー
8. USB-C ポートカバー取り外しボタン
9. レンズ保護カバー
10. クイックスイッチ ボタン
11. スピーカー
12. バッテリー収納部カバー
13. microSD カードスロット
14. バッテリー収納部カバー取り外しボタン
15. クイックリリース用取り付け穴
16. 圧力センサー

## 1.2 アクセサリー

本製品は様々なアクセサリに幅広く対応し、多様なスポーツシーンに応じて、撮影位置を柔軟に調整することができます。

## Osmo Action 接着式カーブベースキット

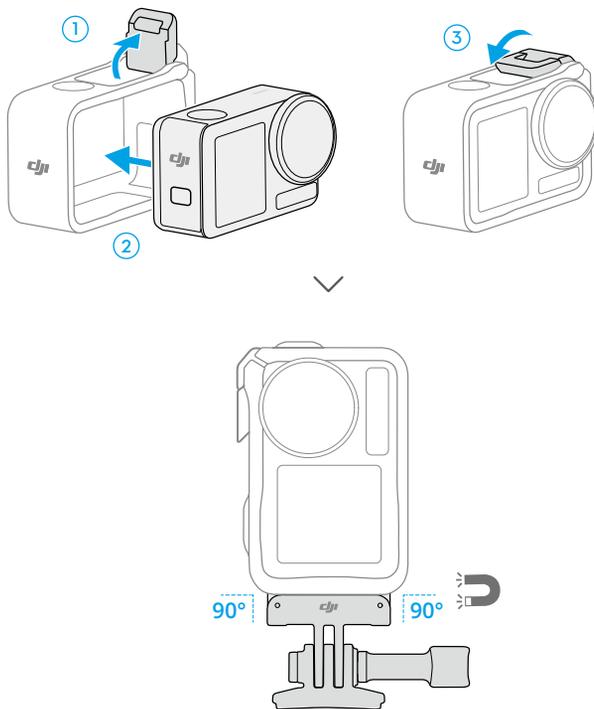
接着式カーブベースキットを使用することで、滑らかで綺麗な状態の曲面にもカメラをしっかりと取り付けることができます。



- ⚠️ • クイックリリース式アダプターマウントのクリップがカメラのクイックリリース用取り付け穴にしっかりと挿入されるまでカメラを押し下げ、止めネジで締めます。クイックリリース式アダプターマウントのクリップを押すと、カメラを取り外せません。
- 接着式ベースをしっかりと貼り付けて、10秒間以上押さえ続けます。その後、30分待ってからカメラを取り付けることをおすすめします。
- 接着式ベースは、綺麗な状態の曲面に1回だけ取り付けが可能です。接着式ベースを、平らな面、粗い面、粉のついた面、はがれかけた面、ほこりや砂のついた面、または油やワックス、水汚れが付いた面には取り付けられないでください。アダプターマウントがしっかりと取り付けられない恐れがあります。
- 接着式ベースの推奨適用温度は-10℃～40℃です。この温度範囲よりも高い、または低い温度の表面に接着ベースを取り付けられないでください。

## Osmo Action 保護フレーム（水平&垂直取り付け）

保護フレーム（水平&垂直取り付け）を使用すると、カメラの向きを水平から垂直位置にさと切り替えて、異なるアングルで撮影できます。



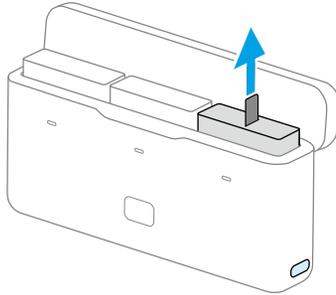
## Osmo Action 多機能バッテリーケース

Osmo Action 多機能バッテリーケース（以下「バッテリーケース」といいます）は、バッテリーと microSD カードを安全に保管できるように設計されています。ボタンを 1 回押すか、バッテリーケースを開けると、バッテリー残量を確認できます。ステータス LED には、バッテリー残量が示されます。

バッテリー挿入時、充電器をバッテリーケースと接続すると、バッテリーケースはバッテリーを順番に充電します。残量が一番高いバッテリーが最初に充電されます。

バッテリーをバッテリーケースに挿入し、USB-C ポートに外部デバイスを接続した場合は、バッテリーがパワーバンクとして接続された外部デバイスを充電します。バッテリー残量の少ないバッテリーから先に放電され、その後、次に残量の少ないバッテリーが順に放電されます。

本バッテリーケースを使用してバッテリーを充電する場合は、PD 規格対応または PPS (Programmable Power Supply) 規格対応の USB-C 充電器の使用をお勧めします。



- 
- ⚠
- 本バッテリーケースを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
  - バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。
  - 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
  - バッテリーケースは、防水ではありません。ケースを水に入れたり、液体をこぼしたりしないでください。
-

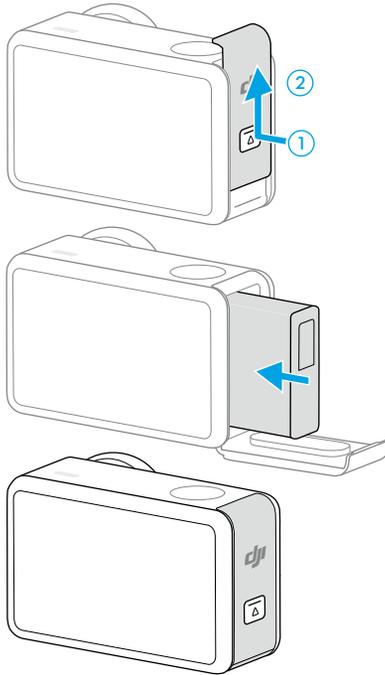
# 初めてのご使用にあ たって

---

## 2 初めてののご使用にあたって

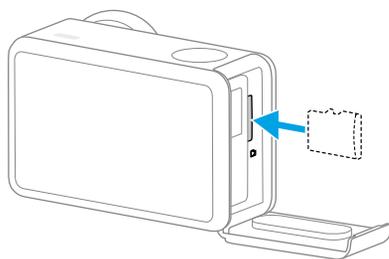
### 2.1 バッテリーの取り付け

バッテリー収納部カバーの取り外しボタンを押して上にスライドさせてから、バッテリーをバッテリー収納部に挿入します。バッテリーが正しく挿入されていることを確認してから、バッテリー収納部カバーを閉じます。

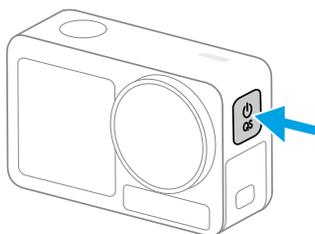


### 2.2 microSD カードの挿入

このカメラは、microSD カードでストレージ容量を拡張できます。DJI ウェブサイト (<https://www.dji.com/osmo-action-5-pro/specs>) の推奨 microSD カードリストを参照してください。



## 2.3 電源オン



クイックスイッチ ボタンを長押しして電源を入れます。カメラのスナップショット機能はデフォルトで有効になっています。

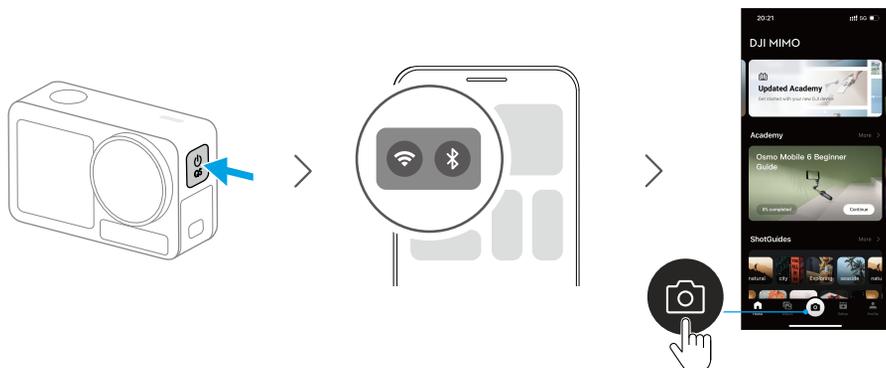
スナップショット機能は、撮影を開始する最速の方法で、アクションの瞬間を逃しません。カメラの電源がオフの状態でも、シャッター／録画ボタンを長押しすることで、素早く電源を入れ、スナップショットモードで即座に撮影を開始することができます。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。

スナップスイッチ ボタンを長押しして電源をオフにします。

## 2.4 アクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mimoを使ってカメラのアクティベーションを行ってください。

1. クイックスイッチ ボタンを長押しして電源を入れます。
2. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
3. モバイル端末で DJI Mimo を起動して、カメラアイコンをタップしてカメラに接続し、手順に従ってカメラのアクティベーションを行います。



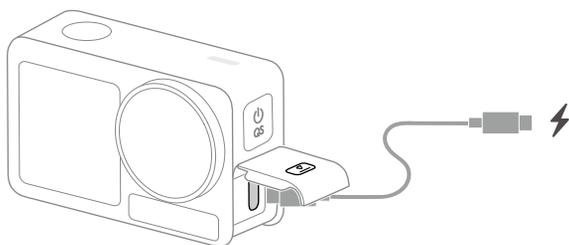
DJI Mimo アプリでカメラを使用すると、モバイル端末を使用して、現在のカメラビューをモニタリングしたり、カメラパラメーターを設定したり、カメラを制御したりできます。DJI Mimo アプリを使えば、転送、編集、ファイル共有、ライブストリーミングなど、一連の機能でカメラを最大限に活用できます。

💡 DJI Mimo への接続時に問題が発生した場合には、次の手順に従ってください。

1. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth の両方が有効になっていることを確認してください。
2. DJI Mimo アプリのファームウェアが最新バージョンであることを確認してください。
3. 画面上部から下にスワイプして操作メニューに入り、**無線接続 > 接続をリセット**を選択します。カメラのすべての接続と Wi-Fi パスワードがリセットされます。

## 2.5 バッテリーの充電

PD 規格対応の USB-C 充電器や PPS (Programmable Power Supply) 規格対応の USB-C 充電器の使用をお勧めします。電源を切った状態で、充電するとステータス LED は緑色に点滅します。ステータス LED が消灯すると、バッテリーの充電は完了です。



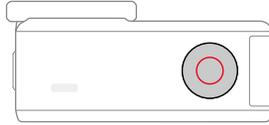
# 基本操作

---

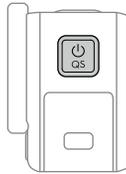
## 3 基本操作

### 3.1 ボタン機能

#### シャッター／録画ボタン



- 1回押す：写真を撮影。または録画を開始／停止します。
- 長押しすると、電源がオフになります。素早く電源を入れ、撮影を開始します。撮影モードは、スナップショットの設定により異なります。撮影後、カメラを3秒間放置すると自動的に電源が切れます。

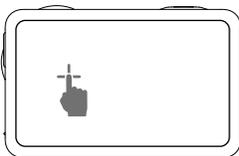


#### クイックスイッチ ボタン

- 長押し：電源オン／オフ。
- 1回押す：撮影モードを切り替えます。映像やスローモーションの録画中に押すと、映像のハイライトモーメントがマークされ、編集後に特定のショットをすばやく見つけることができ、ハイライトを探す時間を短縮することができます。

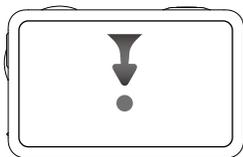
### 3.2 タッチ画面の操作

カメラの電源を入れると、カメラの両方のタッチ画面にライブビューが表示され、撮影モード／バッテリー残量／microSDカードの情報も表示されます。カメラを操作するには、タッチ画面をタップするか、上にスワイプしてください。

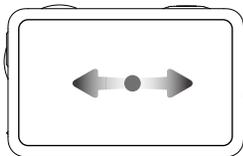


#### タップ

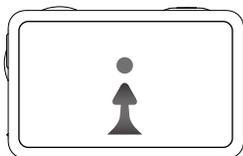
画面両側のアイコンを選択すると、映像の再生や、カメラ設定の変更ができます。



画面上部から下へスワイプ  
操作メニューに入ります。



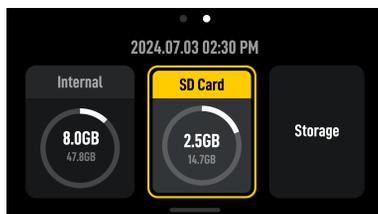
左または右へスワイプ  
動画モード、写真モードなど、撮影モードを切り替えます。



画面下部から上へスワイプ  
アスペクト比、カウントダウン時間、解像度などの撮影パラメーターを設定します。

### 3.3 写真および動画の保存

画面上部から下にスワイプし、それから左にスワイプすると、ストレージ情報を確認できます。microSD カードが挿入されていると、すべての画像・動画を microSD カードに保存できます。内蔵ストレージまたは microSD カードをフォーマットするには**ストレージ**をタップします。



- ⚠️ フォーマットを行うと、すべてのデータが永久に消去されます。フォーマットする前に、必要なすべてのデータを必ずバックアップしてください。

## 本製品の使用

## 4 本製品の使用

### 4.1 撮影パラメーターの設定

画面下部から上へスワイプすると、各撮影モードのパラメーターを設定できます。撮影モードにより、設定パラメーターは異なります。

#### バースト

アスペクト比とバーストレート（1秒あたりのフレーム数）を設定します。

バーストレートがオフに設定されている場合、カメラは1枚の写真しか撮影しません。

異なるアスペクト比を選択すると、異なるバーストレート（1秒あたりのフレーム数）を設定できます。このとき、カメラは素早く複数の写真を連続して撮影するので、一連の写真からベストショットを選ぶことができます。動きの速い被写体を撮影するのに適しています。

#### プリ録画とループ撮影

映像・スーパーナイトモードでは、左上隅をタップすると、プリ録画またはループ撮影を有効にして、時間を設定します。

- プリ録画：有効にすると、カメラは設定した時間内に映像をプリ録画します。シャッター／録画ボタンを押すと、カメラは、シャッター／録画ボタンを押す前の最新の録画済み映像を保存して録画を継続し、その映像を全体の映像として保存します。この機能を使用すると、カメラはシャッター／録画ボタンを押す前に映像を保存し、microSDカードのスペースを占有しすぎないようにできるため、ハイライトの撮影に役立ちます（特に釣りの場合）。
- ループ撮影：有効にした場合、カメラは選択した時間が経過すると、古い映像を新しい映像で上書きして録画します。この機能により、カメラはmicroSDカードの容量を節約することができ、予期しないハイライトを撮影するために待機しているシーン（運転中など）での使用に適しています。

#### EISモード

映像・スーパーナイトモードで、右上隅をタップすると、EISモードを設定できます。

- 無効：選択すると、FOVを最大にして動画を撮影します。
- RockSteady：映像のブレを補正しながら、ダイナミックな動きを維持します。一人称視点の撮影に適しています。
- RockSteady+：RockSteadyと比較すると、画像のエッジがわずかに縮小され、ブレ補正の性能が高まります。
- HorizonBalancing：このモードは、 $\pm 45^\circ$ 以内の画像のブレを軽減します。
- HorizonSteady：このモードは、どれほど水平が傾いても（ $360^\circ$ ）傾きを補正できるため、カメラをどんなところに取り付けたり、身につけたりしても水平を維持します。

- 🌞 • ジャイロデータで映像を録画するには、EIS モードを無効にし、カメラの FOV をワイドに設定します。

## 4.2 映像パラメーターの設定

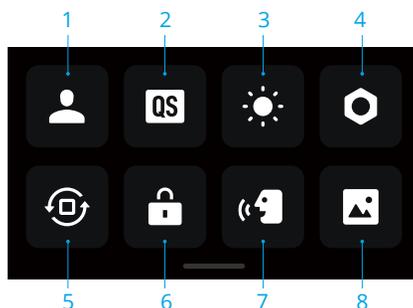
カメラビューで、 をタップすると、映像・音声パラメーターを調整できます。[PRO] をタップすると、プロ向けのパラメーターを調整できるようになります。

下に示すように、撮影モードによりさまざまなパラメーターを設定できます。

- 映像調整：最適な画質のニーズに合わせて、テクスチャとノイズ低減を調整できます。
- カラー：ノーマル 8bit、ノーマル 10bit、HLG 10bit、D-Log M 10bit が使用可能です。[HLG]モードでは、広いダイナミックレンジと色域で記録して、HLG 互換のテレビやモニターに表示できます。D-Log M は後編集の際にプロ仕様のカラーグレーディングが行えるように設計されています。ハイコントラストや色彩豊かな（庭、野原など）撮影シーンでダイナミックレンジを拡大でき、ポストプロダクションでの柔軟なカラーグレーディングを可能にします。10-bit 色深度により、滑らかで自然な階調表現を実現します。D-Log M を選択した場合、色回復（カラーリカバリー）をオンにして、ライブビューでカラー効果をプレビューすることができます。
- オーディオパラメーター：チャンネル、風ノイズ低減、マイクが利用可能。オンにすると、カメラはアルゴリズムを使用して内蔵マイクが拾った風ノイズを低減します。注：外部マイクを接続した場合、風ノイズ低減は機能しません。

## 4.3 システム機能の設定

画面上部から下にスワイプすると、操作メニューに入ります。



### 1. カスタムモード

タップすると、カスタムモードを作成し、管理できます。カスタムモードは、同じようなシーンを撮影するときに、直接使うことができます。

### 2. クイックスイッチ

アイコンをタップすると、音声プロンプトを設定でき、クイックスイッチ ボタンでアクセスできるモードを設定できます。音声プロンプトを有効にすると、クイックスイッチ ボタンを押してモードを変更する際に、カメラが撮影モードを通知します。ヘルメットなど見えにくい場所にカメラを設置する場合、音声プロンプトで必要なモードを正確に選択することができます。

### 3. 明るさ

### 4. 設定

### 5. 方向ロック

### 6. 画面ロック

### 7. 音声操作

### 8. フロント画面の全画面表示

## 4.4 音声操作

画面上部から下にスワイプして操作メニューに入り、をタップして、**音声操作**を選択します。[音声操作] を有効にすると、音声コマンドでカメラを操作できます。

簡体中国語と英語に対応しています。英語での音声コマンドには、Start Recording（録画開始）、Stop Recording（録画停止）、Take Photo（写真撮影）、Shut Down（電源オフ）があります。

## 4.5 タイムコード

画面上部から下にスワイプして操作メニューに入り、をタップして、**タイムコード**を選択し、カメラのタイムコードを設定します。

タイムコードをリセットするか、システム時間と同期します。カメラのタイムコードは、USB-C ポートを使用したタイムコードシンクロナイザーでも同期できます。

**タイムコード表示**をタップすると、ライブビューでタイムコードを表示できます。

## 4.6 ハイライト

をタップして動画を再生します。再生中、アイコンをタップすると、ハイライトをマークできるので、ポストエディット中に特定の瞬間を素早く見つけることができ、ハイライトを

探す時間を短縮できます。マークされたハイライトは、DJI Mimo で再生中に見ることができます。

## 4.7 超スローモーション

超スローモーション機能を使用すると、映像をフレームごとに分析し、スローモーション映像を生成することができます。この機能は、サイクリングやスキーなどの高速なスポーツシーンで、驚きに満ちたエキサイティングな瞬間を映し出すのに特に適しています。

映像を再生する際、特定のポイントを選択して  アイコンをタップすることで、超スローモーションのビデオクリップを生成することができます。生成プロセス中に、[プレビュー] をタップして、スローモーション効果をプレビューすることができます。

[キャンセル] をタップすると、超スローモーション映像の生成を途中で停止することができます。超スローモーションのクリップを削除するには、映像の再生時に右上の  アイコンをタップします。

-  カメラは 4 倍のフレーム補間を行い、最大 960fps のスローモーション映像を生成できます。
- 1 つの映像につき、最大 6 つの超スローモーション映像を追加できます。
- 超スローモーションは、4K/2.7K/1080p 16:9 の映像で、フレームレートが 100fps 以上の場合にのみサポートされます。生成される超スローモーション映像はすべて 1080p の形式になります。
- 映像の最初の 1.5 秒と最後の 2 秒は、超スローモーションの生成に対応していません。

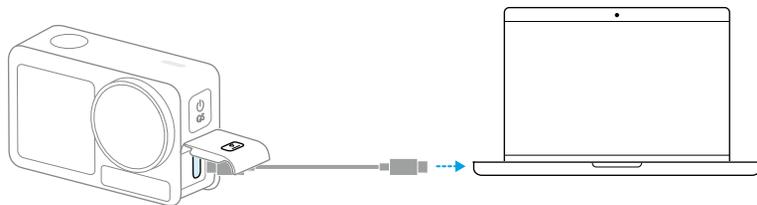
## 4.8 ファイル転送

### モバイル端末へのファイル転送

カメラを DJI Mimo に接続し、[再生] アイコンをタップして、写真と動画をプレビューします。↓ アイコンをタップすると、写真や動画をダウンロードします。DJI Mimo から SNS プラットフォームに、写真と動画を直接共有できます。

### ファイルをパソコンに転送

カメラの電源を入れ、USB-C ケーブルでパソコンに接続します。パソコンに接続すると、ポップアップが表示されます。**ファイル転送：USB** をタップすると、カメラからパソコンにファイルをダウンロードできます。ファイルの転送時は、カメラで写真を撮影したり、動画を録画したりできません。



- 
- 💡 • ファイル転送が中断された場合には、デバイスをパソコンに再接続してください。
- 

### ファイル転送の USB モード

モバイル端末が OTG 接続に対応している場合、USB モードを使用してカメラからモバイル端末にファイルを転送できます。

Type-C - Type-C PD 規格対応ケーブル（同梱）を使用して、モバイル端末にカメラを接続します。接続すると、端末のアルバムやファイル管理場所から、写真や動画の閲覧や転送が可能になります。

- 
- 💡 • USB モードでカメラがモバイル端末を自動認識できない場合には、画面上部から下にスワイプすると、操作メニューに入ります。**設定 > USB モード**をタップし、PD 規格対応ケーブル（Type-C - Type-C）を使用してカメラを端末に接続します。
- 

## 4.9 マイクの接続

本製品は、Bluetooth 経由で 2 つの DJI ワイヤレスマイクの同時接続に対応しており、安定したワイヤレス音声録音と撮影のリモートコントロールが可能です。

ワイヤレスマイクを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. 操作メニューに入り、設定のアイコンをタップします。ワイヤレスマイクの設定と、リンクするトランスミッターを選択すると、カメラはトランスミッターとリンクする準備が完了します。
2. トランスミッターの電源を入れ、トランスミッターが Bluetooth 経由でリンクできる状態になっていることを確認します。
3. トランスミッターを起動し、近くの Bluetooth 端末の検索を開始します。
4. トランスミッターがカメラと正常にリンクされると、画面のプロンプトに従って接続ステータスを確認できます。
5. リンクが完了すると、トランスミッターを使用してカメラを制御し、録画を開始し、音声トランスミッターでキャプチャできるようになります。

- ☀️ • 詳細については、DJI のウェブサイトや、マイク製品のユーザーマニュアルを参照してください。
- 操作メニューに入り、**内蔵マイク音声バックアップ**を有効にします。有効にすると、カメラの内蔵マイクは動画撮影中に音声も録音し、音声を別の.wav ファイルとして保存します。
- トランスミッターがカメラにリンクされている場合、ワイヤレスマイク設定をタップして、トランスミッターの音声パラメーターを調整できます。

## 4.10 ウェブカメラモード

本製品は、パソコンのウェブカメラとして使用することができます。本製品の電源をオンにし、USB-C ケーブルでパソコンに接続します。本製品は USB モードになります。カメラの **Web カメラ** をタップしてウェブカメラモードに入ると、カメラがウェブカメラ入力デバイスとして機能します。画面の下部には、ウェブカメラと表示されます。シャッター／録画ボタンを押すと、録画を開始します。画面右側の[画像パラメーター設定]アイコンをタップして、露出、ホワイトバランス、FOV の各パラメーターを設定します。ウェブカメラモードを終了した後、録画した動画をプレビューできます。

## 4.11 深度と高度

深度または高度の関連設定が有効になっている場合、録画された動画には深度または高度の情報が含まれます。

画面上部から下にスワイプすると、操作メニューに入ります。設定アイコンをタップして、**深度と高度**を選択し、ダイビングまたはハイキング&パラシュートシナリオのパラメータを設定します。

また、記録されたデータは、DJI Mimo アプリのダッシュボード機能を使用して、視覚化された形式で映像に追加することができ、エキサイティングなスポーツの瞬間をよりよく表現することができます。

# メンテナンス

## 5 メンテナンス

### 5.1 ファームウェアの更新

DJI Mimo を使用して、デバイスのファームウェアを更新します。

ファームウェアを更新する前に、バッテリーがフル充電されていることを確認してください。デバイスを DJI Mimo に接続します。新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Mimo にプロンプトが表示されます。プロンプトをタップし、画面上の指示に従って、ファームウェアを更新してください。

💡 更新できない場合、次の手順に従って問題を解決してください。

1. カメラと DJI Mimo を再起動します。
2. モバイル端末で Wi-Fi と Bluetooth を有効にします。
3. カメラを DJI Mimo に接続し、アップデートを再試行します。

更新に失敗したら、DJI サポートにご連絡ください。

### 5.2 水中で使用するときの注意

本製品は水深 20 m までの水中で使用できます。Osmo Action 60m 防水ケースと併用すると、水深 60 m まで使用できるようになります。

水中で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

1. バッテリーを挿入する前に、バッテリーとバッテリー収納部が乾いた清潔な状態であることを確認してください。バッテリーの接続性や防水性に影響を及ぼす恐れがあります。バッテリーを挿入した後、バッテリー収納部カバーがしっかりと閉じられていることを確認してください。カバーが適切に固定された後は、赤いマークが見えなくなることに注意してください。
2. USB-C ポートカバーとレンズ保護カバーがしっかりと取り付けられ、固定されていること、防水シールが汚れていないことを確認してください。デバイスの防水性能に影響を与える恐れがあります。本製品上にある穴は、すべて防水処理が施されています。穴をついたりしないようにしてください。
3. レンズ保護カバーが良好な状態であることを確認してください。破損した場合は、すぐに交換してください。レンズ保護カバーとレンズを清潔で乾燥した状態に保ってください。鋭利なものや硬いものはレンズを傷つけ、カメラの性能に影響を与える恐れがあります。レンズ保護カバーがしっかりと取り付けられていること、レンズの根元にあるゴムリングが外れていないことを確認してください。
4. Osmo Action レンズフードを使用している場合は、本製品に防水性はありません。

水中で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

1. 本製品を持って、勢いよく水に飛び込むことは避けてください。衝撃で漏水する恐れがあります。
2. 温泉や腐食性液体の中、または極端な水中環境では本製品を使用しないでください。

水中で使用した後は、次の注意事項を守ってください。

1. 水中で使用した後は、浄水でカメラを洗ってください。次回使用するまで、自然乾燥させてください。柔らかく乾いた布でカメラの表面を拭きます。
2. ヘアドライヤーの熱風でカメラを乾かさないでください。マイクの薄膜や内蔵通気性薄膜が破裂し、カメラの防水性が失われる恐れがあります。
3. カメラを水中で使用した後、バッテリーを交換する必要がある場合には、バッテリー収納部の隙間に水が入らないように、バッテリー収納部カバーを下向きに開けてください。バッテリー収納部の隙間の水滴を拭き取り、赤い防水ゴムリングを清掃して異物が残らないようにします。清掃をしないと、その後の使用時、防水性能に影響します。
4. レンズ保護カバーの交換時は、カメラが乾いた状態であることを確認してください。カメラを水中で使用した後は、カメラを乾かしてから使用してください。これを行うことにより、レンズ保護カバーに水が浸入して、レンズが曇るのを防ぐことができます。

防水ケースを本製品に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

1. 使用中、ゴム製シールが清潔でしっかりと取り付けられていることを確認してください。
2. 防水ケースが乾いていて（より良く使用するため、使用中は曇り止めインサートをケースに入れてください）、ラッチがしっかりと固定されていることを確認してください。
3. ご使用前に、正常に機能することを確認するため、防水ケースを約5分間水中に入れておくことを推奨します。
4. 海で使用した後は、腐食防止のため、本ケースを水道水ですすいでください。



- タッチ画面は、表面が濡れていても使用できます。
  - タッチ画面は、水中に完全に沈むと機能しません。カメラのボタンを押すことで録画を開始できます。防水ケースなしで、本カメラを水深10m以上で使用すると、シャッター／録画ボタンが自動的に無効になります。
- 

### 5.3 お手入れについての注意

1. アルコールまたは洗浄液を含む液体をカメラに使用しないでください。
2. マイクの穴や放熱スロット、カメラのその他の部分が砂などの異物でふさがれた場合は、カメラを密閉・防水状態にして、真水で洗い流してください。

3. レンズ保護カバーは、水、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアブロー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。レンズ保護カバーを頻繁に取り外さないでください。レンズカバー内にほこりがたまり、撮影画質に影響を与える可能性があります。
4. レンズは、レンズ用クリーニングペン、レンズ用エアブロー、またはレンズ用クリーニングクロスを使って、きれいにしてください。
5. 乾いた清潔な布で、バッテリーとバッテリー収納部を掃除してください。
6. カメラのクイックリリース用取り付け穴にほこりや砂が附着していないことを確認し、クイックリリース式アダプターマウントを取り付けてください。

## 5.4 バッテリーの使用に関する警告

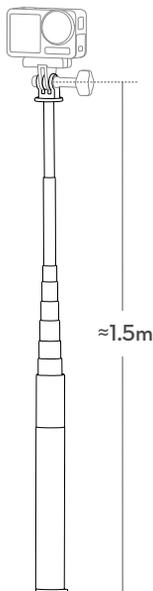
1. DJI Osmo 以外のバッテリーは使用しないでください。新しいバッテリーは [www.dji.com](http://www.dji.com) で購入できます。DJI Osmo 非純正バッテリーの使用に起因する故障または損傷に対し、DJI Osmo は責任を負わないものとします。
2. <https://www.dji.com/osmo-action-5-pro/specs> で指定された温度範囲内でバッテリーを使用してください。高温環境でバッテリーを使用すると発火や爆発につながるおそれがあります。低温環境でバッテリーを使用する前に、室温環境でバッテリーを完全に充電することをお勧めします。理想的な温度でバッテリーを充電すると、バッテリーの寿命を延ばすことができます。
3. バッテリーを良好な状態に保つために、3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に放電したあとフル充電するようにしてください。
4. バッテリーは、完全に充電されると充電を停止するよう設計されています。充電の進捗状況を監視し、バッテリーがフル充電されたら充電器の接続を取り外すことをお勧めします。
5. バッテリー電圧が低すぎると、バッテリーは低電力状態になります。低電力モードを終了するには、バッテリーを充電してください。
6. バッテリーを完全に放電した状態で長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、バッテリーセルが修理不能な損傷を負う恐れがあります。
7. バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、40~65%まで放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。

## 5.5 他のアクセサリーの使用（非同梱品）

対応する DJI デバイスは、今後継続的に更新いたします。対応デバイス一覧は、<https://www.dji.com/osmo-action-5-pro> でご確認ください。

以下の図を参考にして取り付けてください。

## Osmo 1.5m 延長ロッド

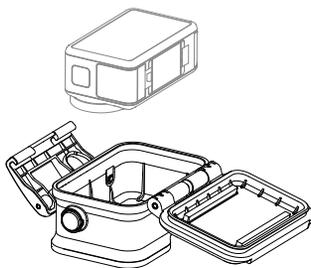


- 
- ⚠
- 損傷を避けるため、使用中は延長ロッドを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  - 損傷を避けるため、カメラ装着時に延長ロッドを乱暴に振り回したりしないでください。
  - 水中での使用後は、きれいな水ですすいで砂を取り除いてください。
  - 落雷を避けるため、雷雨時は延長ロッドを使用しないでください。
- 

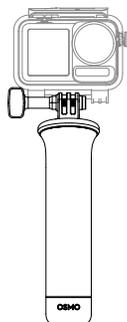
## Osmo 磁気ボールジョイント アダプターマウント



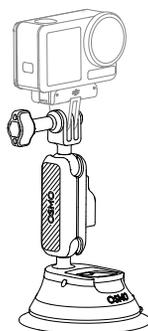
## Osmo Action 60m 防水ケース



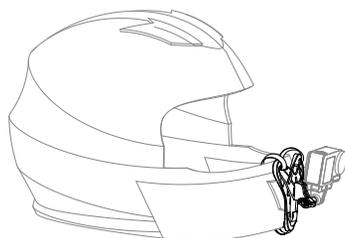
## DJI フローティングハンドル



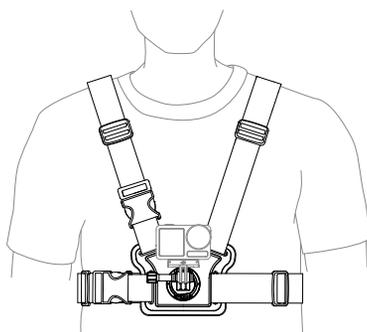
## Osmo Action サクシヨンカップ マウント



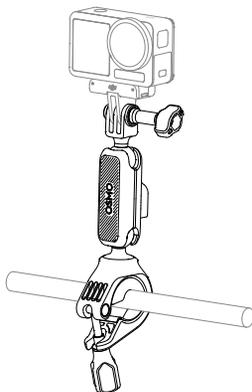
## Osmo Action ヘルメット顎マウント



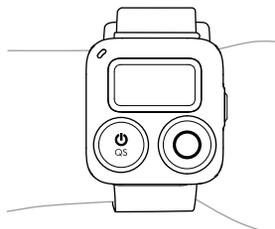
## Osmo Action チェストストラップ マウント



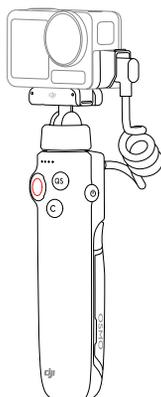
## Osmo Action ハンドルバー マウント



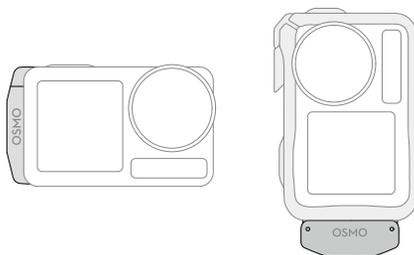
## Osmo Action GPS 内蔵 Bluetooth リモコン



## Osmo Action 多機能充電ハンドル



## Osmo Action コールドシュー延長キット



# 仕様

## 6 仕様

仕様については、次のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/osmo-action-5-pro/specs>

DJI サポート



連絡先

DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。  
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/osmo-action-5-pro/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（DocSupport@dji.com 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。OSMO は DJI OSMO の商標です。

Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.